

フェルプス・コロンビア大教授に聞く

米国で失業問題の長期化が濃厚になっている。失業の理論研究で知られる米コロンビア大のエドマンド・フェルプス教授に聞いた。
——なぜ雇用がこれほど大きく減るのか。

「過去の不況と違う点は金融機関の不良資産や家計

失業問題が長期化

の過剰債務などの構造問題があることだ。金融システムから企業にお金が流れず

新規投資が減った。それが雇用減少を大きくした」

「多くの雇用を生むには

企業がイノベーション（技術革新）を起こし、産業を

発展させることが必要だ。だが過去10年、金融機関は



ド・フェルプス氏
エドマンド・フェルプス

る。今ある銀行では十分に役割を果たせない。新たな銀行を政府が設立してはどうか。自由市場に任せるだけではダメなこともある。

自己勘定の投資や住宅ローンにばかりお金を振り向けた。今回の雇用低迷はそのツケが表れている」

——対処法は。

「企業の長期の事業計画に資金を出す金融機関が要

政府系の住宅金融機関があるのだから、過激な考えではないだろう」

——グローバル化で雇用が海外に流出しているとの指摘がある。

「軽工業の職は中国やイ

企業金融の再生カギ

投資促進、雇用生む

ンドに奪われる。欧米各国はサービス産業を拡大し、企業の投資を加速して経済をつくりかえる必要がある。ただこれから10年はアジアの成長率が高くなり、世界の資本を引き寄せてしまつ。欧米には脅威だ」

——オバマ大統領は新規雇用を生んだ企業に減税する方針だ。

「新規雇用でなく、今の雇用を維持した企業に減税すべきだ。過去にシンガポールやドイツが実施し、効果をあげた。新規雇用を促

す。この先、数四半期は急速に改善するかもしれないが、2012年ごろになると回復ペースは非常に緩慢になる。今後3〜4年間は失業率は7%以下にはならない」

しても、来年生まれる雇用を先食いするだけになる。また減税は雇用が急減する前に行うのが理想で、政府・議会の対応は遅い」

——今後の雇用情勢の見通しは。

「この先、数四半期は急速に改善するかもしれないが、2012年ごろになると回復ペースは非常に緩慢になる。今後3〜4年間は失業率は7%以下にはならない」

（ニューヨーク）
|| 財満大介